

品目	県名	作柄及び概況	販売における現状と今後の見通し
トルコギキョウ	青森	現在、12月定植の出荷開始となっている。 ハウス栽培のため少雨の影響は少なく、順調な生育となっている。	<p>現状</p> <p>暖地中心に2番花も増え高冷地、中間地と入荷始まってきているため出荷はかなり多い状況、相場も軟調な取引となる。</p> <p>見通し</p> <p>大田花き 高冷地中心に出荷は増えてきているが、ある程度軟調な相場から徐々に回復してくる見込み。</p> <p>FAJ 高冷地出荷ピークに。数量まともやや苦戦した販売になる可能性も。</p> <p>東日本板橋花き 7月は高冷地のスタートが遅く中間地に入荷を頼っています。(千葉、栃木、群馬、茨城)</p> <p>世田谷花き 季咲きのシーズンとなり、品種・数量ともに増え、選択肢が広がる。</p> <p>第一花き</p>
	秋田	他の品目と同様に、トルコの生育も早く、徐々に各品目出揃ってきている。生育も順調に進んでいるため、昨年以上の出荷を見込んでいる。	
	山形	7月出し作型の生育は、順調に生育し発らいしている。今年春先以降高温であったことから、前進出荷が見込まれる。 病害虫の発生はほとんどみられず、品質は良好である。	
	北海道	春先の雪解けが早く、ハウスに冷たい風が入ることにより、2月定植の成長がまばらになり、出荷時期が昨年より遅れている。	
	群馬	今後中心となる北部は、6月25日頃から出荷開始予定。生育も順調で、品質等は平年並み。病害虫等も問題なし。 県内全般で春先の5月の高温少雨の影響はなく、生育は順調。病害虫の発生が増える時期だが、防除は徹底されている。	
	千葉	①4月の天候不順の影響で、生育が1週間程度遅れている。 ②ポヤージュ等の八重系品種が中心。	
アルストロメリア	北海道	3～5月の高温により生育は前進傾向。ピーク時の出荷本数はほぼ平年並みの見込み。今後高温状態が続くと8月出荷まで出荷量は減少していく見込み。	<p>現状</p> <p>愛知、長野、北海道中心の入荷だが、各産地株養成が進み、出荷数量は減少傾向となった。引き合いは各色強く、品薄傾向となった。</p> <p>見通し</p> <p>大田花き 北海道が7月に合わせた出荷となるため増加。愛知、長野、山形は株の養成期間となり出荷数量が少量となる見込み。 300,000本 @70</p> <p>FAJ 引き続き長野山形中心。葬儀や束需要中心に安定した相場での取引続く。</p> <p>東日本板橋花き 青森、北海道、中心の入荷、業務中心の動き</p> <p>世田谷花き 気温上がると、引き合いが鈍る厳しい流れ。</p> <p>第一花き</p>

品目	県名	作柄及び概況	販売における現状と今後の見通し
スターチス	北海道 (シヌ アータ)	6月初旬の低温により出荷は遅れ気味で推移していたが、中旬からの好天により出荷数が増えている。苗の注文数量は前年対比98%であり昨年並みの出荷数量となる見込み。	<p>現状</p> <p>高冷地と暖地の切り替わりとなり数量不安定な入荷が続いた。大きな需要はないが加工、葬儀需要中心に安定した取引となった。</p>
	北海道 (シネン シス)	越冬株の生育・出荷も順調であり今後の出荷数量増加の見込み。新植の株数も前年数量より増加している。6月中旬以降の好天により出荷数も増加している。全国的に出荷数が多くなり、価格安定で推移され今後の高冷地へと産地切り替え以降の動向が気になるところである。	<p>見通し</p> <p>大田花き 7月盆の需要もあり上場は活発な取引となる見込み。盆以降については大きな需要もなく落ち着いた取引となる見込み。</p> <p>FAJ 新盆需要で動き活発に。北海道よりの入荷は変わらず。予約相対分中心の取引に。</p> <p>東日本板橋花き 新盆に向け上位等級が多めの出荷。HBは、シネンシス系が多くなる。チース@90~40。HB @150~20。</p> <p>世田谷花き 北海道・長野産中心の入荷。上位等級中心に潤沢な見込み。</p> <p>第一花き</p>
小菊	秋田	一部産地で出荷が始まっており、7月に入り、各産地本格的な出荷がはじまる。一部産地で、作付けを減らしているものの、メガ団地部分の出荷が始まるため、全体的には数量増の見込み。	<p>現状</p> <p>関東近郊産地より数量が増加。大きな引き合いも無く厳しい販売となる。天候の影響によって短い物や病害の被害を受けた品物が例年と比べても多い状況であった。</p>
			<p>見通し</p> <p>大田花き 上旬に関しては新盆需要中心の引き合いであるも6月後半に前進した品物が纏まり需要期の供給量が不安定な状況となる為、引き合い強めで推移。中旬以降は大きな需要無く厳しい販売となる見込み。</p> <p>FAJ 新盆需要で茨城出荷増量。東北産地も中盤より出荷始まり夏産地で揃う。</p> <p>東日本板橋花き 新盆需要中心、前進化により需要期不足感あり</p> <p>世田谷花き 岩手県産など産地も増え、入荷も増える。7月盆もあるが、前進傾向が止まらず、単価もまちまちか。</p> <p>第一花き</p>
バラ	山梨	病気の発生が見られるが、生育は全体的に順調で、昨年並みに推移している。出荷量も昨年並みの見込み。	<p>現状</p> <p>昨年より入荷量は多少少なく、単価は昨年の110%程度で推移している。輸入品はほぼ入荷無く、国内品の流通が大多数を占める。高冷地産も品質安定してくる。</p>
			<p>見通し</p> <p>大田花き 大きな需要無く、厳しい販売環境になると思われる。一部の生産者では剪定作業の為、切り戻し等を行い、秋口に出荷を合わせる。品種によっては全く出荷が無い品種が出てくる。</p> <p>FAJ 宮城・山形などより入荷。ほぼ例年並みの出荷数量を予定。</p> <p>東日本板橋花き 7月は西南産地を中心に剪定、改植に入るため入荷量は減少してくる。山形中心の入荷となってくる。</p> <p>世田谷花き 入荷は昨年並みの見込み。後半の連休に期待。</p> <p>第一花き</p>